

事業実績書

団体名

小鯖地域づくり協議会

1 地域づくりの活動方針(テーマ)

地区住民および各種団体が連携・協力して、自然豊かで安心して住み続けられる地域づくりを進める。

2 今年度、重点的に取り組んだ視点(事業)

①	視点	第4次地域づくり計画の初年度にあたり、新たに分野ごとに編成した各部会の取り組む事業を抽出し計画立てて進めた。それぞれの事業計画は、単年度と継続させる事業に分けて進めていけるよう、委員の負担感の軽減にも留意しながら次年度に継続できるよう進めた。また、6年度より農山村にぎわい計画により地域で検討を進める複合拠点施設設置について、自治会ほか各団体に対し基本的考えと進め方を説明し、検討委員会の設置に向けた基盤づくりを行った。		
	事業名	小鯖これからプロジェクト地域活動補助事業	決算額	計)658,788円
②	視点	高齢者の地域福祉対策事業として、助け合いの仕組みの事業を開始した。年度当初は運営委員会での協議を進め、10月にスタートし地域への浸透を諮った。また、地域福祉交通の検討や人生100年時代についての具体策に取り組んだ。		
	事業名	高齢社会に向けた検討、施策事業	決算額	計)185,921円
③	視点	安心・安全事業として、空き家対策及び自主防災の各種研修・訓練等を通じ、住民の生活安全及び防災意識を向上させ、安全な生活地域、災害時の自主防災意識の向上につなげた。交通安全対策では、ふるさとまつり等の機会を捉え地域住民に対する啓発等を継続的に行った。		
	事業名	地域安全対策、災害対策事業	決算額	計)277,992円

3 今年度の重点的視点(事業)に対する評価

検証(成果、来年度以降への改善点等)	自己評価
①地域活動補助事業:各分野毎に部会編成を更新し、重要な視点として、活動の中心的実行部隊ではなく、地域の問題点を事業ととらえ、その推進について協議し必要な提案や具体的取り組みを中心的な立場で発信するという基盤ができてきた。年度末には検証委員会を行い、分野ごとの取組成果と課題をまとめた。その課題を次年度に反映させる。	○
②高齢化社会に向けた施策:高齢者問題は地域の大きな課題である。今年度は助け合いの仕組みとして具体的活動【小鯖お助け隊】を発足した。小さな取り組みではあるが確実に地域に浸透しつつある。また、人生100年時代と言われるが、健康で無ければ意味がないことから、生きがいづくりにもつながる健康診断をふるさとまつり等の機会を捉えて実施したところ高齢者に好評であった。また、地域福祉交通も継続検討課題として捉えていく。	◎
③地域安心安全事業:継続課題として、空き家対策があるが、今年度は民法改正を受け市空き家対策室の研修を実施する等地域への意識向上を図れた。コロナ禍で停滞した各種防災研修等を復活し、地域住民の防災意識の向上に務めた。しかし、7月初旬に計画した避難所開設訓練は、豪雨となり避難指示が発表され中止した。11月には、救命講習、包帯法の訓練を計画し70名近い参加者があった。各自治会長、自主防災組織及び一般住民及び、消防団からの参加もあり充実した訓練となった。次年度は、避難所運営についてHUG訓練を含め進めたい。	◎

◎(大変よくできた) ○(概ねできた) △(課題が残った) ×(全く出来なかった)

4 総括

第4次地域づくり計画の初年度は、分野毎の地域の課題を事業として捉え、協議し発信する、各部会は事業の中心的活動実行部隊ではなく、課題解決に向けた協議を、部会内外からの支援者も含めて推進することを大きな目的の一つとして進めた。恒常的な事業も進めながら、助け合いは委員会として発足した。生活の安全を図る為空き家対策を継続。また、伝統文化継承は地域の関心度を高めつつ今後の具体的な進め方に注力した。地域福祉交通対策は、関係機関を含め協議が進展した。

5 事業内容

(1) 協議会運営

事業費	4, 863, 542円
事務局の運営体制	(事務員等の雇用人数): 事務局長 1名、事務局員 2名 計 3名 (運営費の主な内容): 事務局人件費、事務費、通信費、各事業費の管理 他 (成果・評価): 年間を通じて滞りなく事務局運営を行った。 (今後に向けて): 第4次地域づくり計画の2年目が、円滑に進むよう取り組む。

(2) 地域福祉

事業名	ボランティア福祉タクシー検討事業
事業費	2, 507円
事業概要	(実施内容): 福祉部会を中心に、既存のコミュニティタクシーとは別に、アンケート等で意見のあった萩往還道沿いの地域の新たな交通について、先進地視察、及び市交通政策課等との協議を実施 (実施時期): 7/6先進地視察及び情報収集、9/1市交通政策課、他との協議 (参加人数): 15名 (成果・評価): 運用基準の精査を踏まえ、関係機関との協議が進行したことは評価できる。高齢化の進むなか、地域課題として各種の問題も浮き彫りになった。 (今後に向けて): 新たな課題もある中、引き続きニーズ調査も検討する。

事業名	生きがいづくり支援事業
事業費	1, 200円
事業概要	(実施内容): 高齢者生きがいセンターを活用したさばろっち交流広場活用のPR活動。また、人生100年時代の中、元気で暮らせることが重要ととらえ、生き甲斐を充実するための施策として、健康管理が重要と考え健康増進課の協力を得て、ふるさとまつりに健康チェックブースを設置した。 (実施時期): 「さばろっち交流広場」常時開設。11/19ふるさとまつり 開設講座: 手芸、笑いヨガ、絵手紙、お茶、カラオケ、囲碁将棋、DVD鑑賞、他 (参加人数): 「さばろっち交流広場」の利用者数は約280人/年、コロナ禍で減少傾向となったが、新たな講座を設けて持ち直した。また「ふるさとまつり健康チェック」参加者45名となった。 (成果・評価): さばろっち広場は利用者が減少しつつあるが、新たな講座を設け利用者の生きがいになっている。 (今後に向けて): 継続して活動すると共に、関連団体等との共催や様々な交流が出来るよう支援していくことが必要と考えている。

事業名	見守り配食支援事業
事業費	40, 683円
事業概要	(実施内容): 高齢者世帯、独居世帯への見守り訪問を兼ねた事業として地区社協を中心に行っている「ふれあい配食」弁当の衛生管理、食中毒発生防止及び食数管理の観点から「3升炊飯器」等の補充を支援した。 (実施時期): ふれあい配食(10月、12月、3月実施) (参加人数): 調理・配食支援 毎回35名程度 (成果・評価): 各回70食程度を配食する。独居高齢者(75歳以上の独居)の見守りも兼ねた取り組みであり、少ない配食回数ではあるが、地域の高齢者対策の一環として感謝されている。 (今後に向けて): 調理や食中毒対策に対応した器具・機材の更新・補充を継続して取り組むと共に、支援団体の意見を取り入れ協調していく。

事業名	助け合いの仕組み事業
事業費	57, 049円
事業概要	(実施内容): 令和2年度から検討等を行い、本年度運営委員会として発足し活動を開始した。33名のボランティアが登録し、10月からゴミ出し支援を行っている。 (実施時期): 通年 (参加人数): 支援ボランティア33名 (成果・評価): 70歳以上の独居高齢者、75歳以上の夫婦世帯を対象に開始した。見守りも兼ねた取組みであり、支援依頼者は現在2名と少数ではあるが、地域の高齢者対策の一環として感謝されている。 (今後に向けて): 支援者(ボランティア)の知識の向上、地域への貢献という崇高さを自覚し、増員できるよう進めるとともに、依頼者のニーズにも答えていけるようさらに検討を重ねる。

事業名	小鯖地域敬老会支援事業
事業費	73, 500円
事業概要	(実施内容): 小鯖地区社会福祉協議会の事業である小鯖地区全体の敬老会開催が円滑に進むよう、会場への送迎バスについて支援した。 (実施時期): 令和5年9月16日 (参加人数): 130名 (成果・評価): 隔年で実施される小鯖地域全体の敬老会が4年ぶりに開催されたが、協議会が送迎バスチャーター料を補助し、事業の円滑な実施に貢献した。 (今後に向けて): 今後も地区社協と協調し計画的に実施する。

事業名	子育てサロン支援事業
事業費	10, 982円
事業概要	(実施内容): 地区内子育て家庭の要望に応え、子育てについて若い親の相談にのる「子育て支援活動」(実施主体: 子育て支援連絡協議会)について、会議費、支援者の昼食等を助成した。 (実施時期): 毎週木曜日 (参加人数): 相談者: 毎週約3組程度、支援者各回2名延べ60名 (成果・評価): 「子育て支援」として、年齢に応じた子育て相談や交流を目的に行われているが、家庭環境や働き方改革で参加率が減少傾向である。そのような状況のなか、毎回親身な対応をしている。 (今後に向けて): 継続して「子育て支援活動」を支援する。併せて、地域複合拠点施設設置に向けた子育て中の家庭からの意見集約を進める。

事業名	こどもの家設立研究事業
事業費	0円
事業概要	(実施内容): (実施時期): (参加人数): (成果・評価): (今後に向けて): 地域複合拠点施設設置に向けた子育て中の家庭及び支援者等からの意見集約を進める。

(3)安心・安全

事業名	生活安全・防犯対策事業
事業費	41, 250円
事業概要	(実施内容):空家実態調査、防犯灯設置、反射鏡設置、掲示板の設置補助 (実施時期): 空家調査(8月～11月)、調査結果説明(12月2日) 空き家対策研修8/22 防犯灯設置、反射鏡・掲示板設置補助事業は通年 (参加人数): 空家対策23地区自治会長、防犯灯8地区、反射鏡1地区実施 (成果・評価):空き家対策:調査個数1900戸、空家としての確認は124戸。各自治会で情報を共有する。防犯灯設置及びLED交換等8件、反射鏡設置補助1件 (今後に向けて):地域の安心安全につながる事業として、重要であり各自治会や関係機関等とも協調し、事業を継続する。

事業名	交通マナー向上維持推進事業
事業費	151, 636円
事業概要	(実施内容):地域住民による地域の交通安全確保、高齢者、児童生徒の交通安全確保等 青色防犯パトロール、 (実施時期):通年、2月 4～5月 各交通安全運動時期他 (参加人数): 交通安全協会、青色防犯パトロール、PTA、地域住民等延べ400名 (成果・評価):年間を通じ、部会委員によるふるさとまつりでの交通安全啓蒙活動、関連団体・地域有志、小中学校の交通安全教室支援、交通安全運動への参加等地域を挙げて活動できた。 (今後に向けて):地域の安心安全につながる事業として、重要であり各方面と協調し、事業を継続する。

事業名	小鯖っ子見守り隊事業
事業費	11, 237円
事業概要	(実施内容):地域住民による、小鯖小学校児童の登下校時の安全確保活動 (実施時期):通年、2月 4～5月 学校主催の交通安全教室 (参加人数): 交通安全協会、交通指導員、見守り隊、青色防犯パトロール、PTA、地域住民等延べ2000名 (成果・評価):交通ルールを守って登下校できている。年間を通じ、児童生徒を巻き込む交通事故は発生していない。青色防犯パトロールは年間延べ約3300kmを巡回している。交通安全運動等へのPTAほか関係者の参加。 (今後に向けて):地域の安心安全につながる事業として、特に児童、生徒等の事故防止対策として重要であり各方面と協調し、事業を継続する。

事業名	挨拶運動事業
事業費	0円
事業概要	(実施内容):コミュニティスクール挨拶運動、地域住民等による交通立哨等の機会を捉えた挨拶等により地域に拡充する。 (実施時期):6月、11月の各1週間 及び通年 (参加人数):延べ800名

	(成果・評価): 挨拶運動は、地域住民と子供のつながりを生み、子供の安全確保にも繋がることで地域の防犯に寄与している。 (今後に向けて): 少子高齢化、及び住民同士のつながりが減少する中、地域の防犯や高齢者の事故防止に寄与できる活動であることから引き続き活動していく。
--	--

事業名	自主防災活動推進、災害発生防止、避難時必要資材充足事業
事業費	73, 869円
事業概要	(実施内容): 指定避難所運営時の支援、避難所運営用保存水確保、各種訓練資料、防災活動啓発資料配布、救命救急蘇生AED使用法訓練の実施 (実施時期): 通年、10/22 救命救急蘇生AED使用法訓練、 (参加人数): 避難所運営延べ12名、消防団による地域警戒4名、救急蘇生AED使用法75名参加(消防団35名含む) (成果・評価): 毎年度避難所開設支援、及び自主防災訓練・研修を実施しているが今年度はコロナ禍後で参加者も多く前向きな評価をいただいた。 (今後に向けて): 引き続き指定避難所開設時の支援を実施するとともに、地域住民を対象にした避難所開設訓練をHUG訓練等により行うこととしている。

(4)環境づくり

事業名	有害鳥獣対策事業
事業費	0円
事業概要	(実施内容): 小鯖地区で発生する有害鳥獣対策として、地域住民の知識の向上、狩猟免許取得等補助、環境対策事業 (実施時期): 通年、1/24有害鳥獣研修 (参加人数): 有害鳥獣研修22名 (成果・評価): 有害鳥獣研修は有害鳥獣の本能的行動、住民自ら注意することなど有意義な研修となった。研修参加者からは具体的に説明され大変勉強になった等の意見も聞かれ、次年度の開催も声があった。 (今後に向けて): 有害鳥獣は年間を通じて出没している。場所によって種類は違うが、被害が無くなるよう引き続き取り組む。

事業名	野良猫対策事業
事業費	114, 000円
事業概要	(実施内容): 地域内で捕獲された野良猫のTNR活動に対し補助する。 (実施時期): 通年 (参加人数): 任意団体3団体8名、 (成果・評価): オス26匹、メス25匹 計51匹の補助実施。突然現れ、人家に住み着き近所迷惑になるところ、市環境衛生課及びNPO団体等の協力もあり、多くの野良猫に対しTNR活動が実施できた。 (今後に向けて): 引き続き野良猫TNR活動は続ける。また、この活動を地域住民へ周知する必要がある活動については継続する。

事業名	地域環境整備 (萩往還道整備、鳴滝公園河川親水プール整備、地域一斉清掃活動事業)
事業費	172, 526円
事業概要	(実施内容): 小鯖地区住民ボランティア、往還道語り部の会他多くの協力を得て歴史の道「萩往還道」周辺(重点的に山口防府市境の佐波山トンネル地区の約800m)の草刈り等の整備、また鳴滝河川親水プール開き前に周辺の草刈り整備を実施。 (実施時期): 萩往還整備年2回(6月、10月)、鳴滝公園プール(7月) (参加人数): 萩往還(6月17日28名、10月16日35名)、鳴滝河川プール(7月15日18名)

ササ川女	(成果・評価): この取り組み事業は8年を経過し、萩往還や鳴滝河川の環境保全の意識も高くなり、一定の参加者数が確保出来、定着化してきている。萩往還コースの美観環境を守ることは散策者の増加につながる。また、自然の中の河川プールということで、市外からの家族連れも多く見られる。しかし、高齢化が進む中参加者が減少しつつある。この対策が喫緊の課題である。 (今後に向けて): 小鯖の財産である萩往還、鳴滝河川プールの整備は、継続していく。
------	---

(5) 地域個性創出

事業名	地域文化継承事業(地域文化史跡名所等の調査、文化財保護の人材育成)
事業費	1, 326円
事業概要	(実施内容): 地域に残る伝統文化の調査、継承について協議し、特に今年度は小鯖八幡宮代神楽舞の保存継承について意見聴取及び地域へ認識を深めるための活動を展開した。 (実施時期): 代神楽舞の練習見学会 夏休み間、10月、又、毎年2月下旬に小学校音楽授業で紹介 (参加人員): 練習見学延べ20名、小学校音楽授業40名 (成果・評価): 小学校の音楽授業は、3年生の和楽器単元で、地元継承されている代神楽保存会のお囃子に使う楽器を紹介することで子供たちが体験している。これはコミュニティスクールが中心となり9年ほど続いている。また、夏休みや10月に実施した見学会は、延べ2日間で20名ほどが参加し、熱心な練習に感動した。次年度以降も、計画的に実施する予定である。さらには、伝承に向けクラブ活動等の設置が出来ないか、関係者による検討会を始める予定である。

事業名	地域活性化応援事業
事業費	0円
事業概要	(実施内容): (実施時期): (参加人員): (成果・評価): 今年度は、具体的活動は無いが、部会の議題として検討を重ねている。

事業名	デジタル化推進事業(高齢者スマートフォン普及、情報伝達デジタル化)
事業費	53, 680円
事業概要	(実施内容): 地域情報伝達のデジタル推進事業「キントーン」アプリを活用し、各委員他関係者との情報伝達を円滑に図る取組。 (実施時期): 通年 (参加人員): 各委員他関係者27名、特別委員会等33名、地域住民 (成果・評価): 情報発信と、管理にキントーン、メールワイズ等を使用し関係者間の情報発受信に効果を見ている。 (今後に向けて): 様々な事業展開に、また運営等に今後も使用しデジタル化を進める。

事業名	広報紙発行事業
事業費	603, 782円(自主財源: 320, 013円)
事業概要	(実施内容): 地域の情報発信の手段として毎月発行し、デジタル化と併用した情報の浸透を図る。 (実施時期): 毎月1回 (参加人数): 配布家庭数1850部

	(成果・評価):ほぼ全家庭に配布できている。トピックス、インフォメーション、レポートに大別した内容で地域の様々な情報を発信。高齢者等の情報入手には必要である。 (今後に向けて):今後も紙媒体としては必要と考え、デジタル化と併用した伝達手段として運用していく。
--	---

(6)補助・助成事業

事業名	若者のびのび事業
事業費	0円
事業概要	(実施内容):地域の若い世代からの意見等を受け入れ、事業運営に活かす。 (実施時期):6月～3月まで (参加人数): ー (成果・評価): 今年度は具体的な提言はない。既に来年度に向け準備している任意団体があり、現在情報収集中である。 (今後に向けて):次年度は、特に複合拠点施設設置に向けて意見を集約していくこととなるが、若年層の意見を取り入れる絶好の機会と捉え進めていく。

事業名	にぎわいづくり事業(小鯖夏まつり、小鯖ふるさとまつり)
事業費	826, 140円
事業概要	(実施内容):小鯖夏まつり、及びふるさとまつりへの補助支援を実施。 (実施時期):夏まつり8/13、ふるさとまつり11/19 (参加人数):夏まつり 企画運営委員会32名、来場者約1000名 ふるさとまつり 参加団体27団体等、中学生ボランティア17名、推進委員会等26名、来場者約800名 (成果・評価):夫々 コロナ禍後フル企画の開催は4年ぶりとなったが、多くの来場者があり盛況であった。夏まつりは帰省者、他地区からの来場者を含め交流を深められた。ふるさとまつりはサークル活動の減少も見られる中、ボランティアやステージ発表で参加した中学生は自らの活動が地域に役立つことを肌で感じる機会になっている。 (今後に向けて):多くの来場者がある中、高齢化による参加者の減少がある。地域生活の充実感の育成観点からも、今後も有効な補助を関係者とも協議し進めたい。

事業名	地域複合拠点施設設置検討事業
事業費	0円
事業概要	(実施内容):小鯖の地域課題である、総合的な複合拠点施設の設置に向けた協議・説明。 (実施時期):8/24移動市長室、1/15協議会関係者への説明、2/8,自治会長、各団体長等への説明実施 (参加人数):自治会長23名、各団体等27名、関係者 (成果・評価):地域課題はアンケートから抽出されているが、地域の具体的検討を進めるための行政からの説明受けの場を設置した。農山村ににぎわい計画と位置づけられ、地域の関係者が共通認識を持てた。 (今後に向けて):令和6年度に、地域複合拠点施設設置に向けた具体的検討委員会を設置し、意見集約を目指す。

事業名	地域個性創出事業(大内・小鯖教育圏地域協育支援活動)
事業費	84, 423円
	(実施内容):大内・小鯖地域協育ネット事業を推進し、特に小中一貫教育を地域の立場から応援し、地域の将来を担う人材の育成に寄与する。

事業概要	(実施時期): 5/25中学生地域探訪, 7/28教職員地域探訪, 8/25,26小鯖維新塾開催 (参加人数): 教職員6名、地域住民6名、児童・生徒180名 (成果・評価): 小学校教職員による地域探訪、中学1年生地域探訪を支援、小学校夏休み維新塾を企画運営、及び支援したが生徒は積極的に参加し、郷土の文化や歴史について生きた体験ができています。教職員については、家庭訪問が実施されない中、コロナ禍を除き4回実施しており、担任する児童の住む地域を訪問することで地域を知る機会となっている。 (今後に向けて): 引き続き、地域の学校応援事業に積極的に関わり、協育ネット事業の目的達成に寄与する。
------	---

事業名	地域活性化事業(上下水道延伸整備・働く場所確保)
事業費	0円
事業概要	(実施内容): 地域課題である上下水道延伸整備、及び地域で働ける場所を確保することで、住み続けられる地元、若者の定住、人口移住等の相乗効果を狙う。 (実施時期): 通年、8月24日 (参加人数): 自治会長、協議会役員等25名 (成果・評価): 年度当初、各自治会等から意見聴取、及び以前からの持ち越し課題を含め、移動市長室等で市に対し、意見及び提案を行った。過去に提案した懸案について改善進捗が見られている点を評価する。 (今後に向けて): 6年度は早めの段階で自治会長等に意見を求め、審議の時間を取り有意義な意見を提言するとともに、引き続きの懸案を含め要望していく。

事業名	さばろっち活動(地域活性化)
事業費	220円
事業概要	(実施内容): 『さばろっち』宣伝部長を活用した広報活動により、小鯖を広く発信する。 (実施時期): 通年 (参加人数): 小学校竹馬大会 小学生、保護者、シニア小鯖、関係者等300名 (成果・評価): コロナ禍で出演依頼が減少気味であるが、報道等が期待できる小学校竹馬大会に出演し宣伝効果を得た。 (今後に向けて): 引き続き各種の行事に参加し、小鯖を宣伝する。

事業名	地域活性化(小鯖これからプロジェクト)
事業費	0円
事業概要	(実施内容): 地域住民参加による、各種の協議、及び実行委員会等の運営他 (実施時期): 通年 (参加人数): 地域住民等延べ70名 (成果・評価): 第4次地域づくり計画の初年度は、地域複合拠点施設設置に向けた足掛かりとなる説明会を、関係役員、地域住民代表等に行った。6年度に向けた準備が整った。 (今後に向けて): 検討委員会設置、意見の集約等を確実にし、委員会に格上げする。

事業名	地域活性化(里の駅推進事業)
事業費	0円
事業概要	(実施内容): 地域住民、特に高齢者の憩いの場としての活動確保 (実施時期): 通年 (参加人数): 利用者(買い物、食事、相談等)20名/日程度週6日 (成果・評価): 利用者は定着しているが、相談者に伸び悩みがある。 (今後に向けて): 実行委員会組織で別建てではあるが、複合拠点施設設置検討へ加わり今後の姿を協議する。

事業名	地域活性化(事業検証・検討)
事業費	0円

事業概要	(実施内容): 5年度事業及び部会活動を検証し、次年度へ反映する。 (実施時期): 3月19日 (参加人数): 役員、部会長・副部会長、事務局16名 (成果・評価): 5年度は第4次地域づくり計画の初年度であったが、新編成後の各部会とも積極的に課題に取り組みそれぞれの成果を見た。部会員自ら先進地視察、各種の研修参加等知識の研鑽に務め、事業そのものが年度を超えて引き継ぐ課題となっていることを認識しながら進めている。 (今後に向けて): 各課題は継続していくものが多く、6年度は部外有識者等も加えて検討するとともに、具体的事業活動に段階的に進める。
------	---

事業名	スローガン張替事業
事業費	41,800円
事業概要	(実施内容): 第4次地域づくり計画で変更したスローガンを交流センター前壁に張替掲示する。 (実施時期): 2月10日 (参加人数) 地域住民、協議会関係者 (成果・評価): 5年度は第4次地域づくり計画の初年度であったが、新たなスローガン「自然豊かで安心して住み続けられる小鯖」を掲げ、来訪者の目に触れることにより地域の一体感を醸成している。 (今後に向けて):